

「散骨・海洋葬ネット」という情報サイトに弊社の合同散骨・代行委託散骨の取材レポートが掲載されました。日本でもっとも散骨船に乗船している経験を持つ取材記者のレポートです。ブルーオーシャンセレモニーの施行内容を把握していただくために転載いたします。

散骨・海洋葬ネット
SEA SCATTERING CEREMONY NET



クローズアップ vol.19 散骨・海洋葬同乗体験レポートⅦ



以前「お坊さんのための海洋散骨体験」の取材をさせていただいたブルーオーシャンセレモニーの合同散骨、代行委託散骨に同乗しました。細やかな心遣いと「セレモニー」という名前の通り、お別れの時を大切にする合同散骨は、きっと参加したご遺族の心に残る清々しいセレモニーであったはずです。

ご遺族一組ごとにテーブルをセット



乗船するご遺族の集合を待つ船内は、清掃が行き届き、参加するご遺族の人数に合わせてテーブルがセットされています。この日は合同散骨に5組16名の方が参加しました。テーブルの上には花かごとお菓子が置かれています。そして後部デッキには代行委託散骨4柱とそれぞれに花かごが用意されています。木箱に納められたご遺骨は、男性の故人には水色の風呂敷、女性の故人には臙脂（えんじ）色の風呂敷でていねいに包まれています。ご遺族が乗船したあとの各テーブルにも、同じように風呂敷に包まれたご遺骨が置かれ、最後のお別れをします。

スーツにネクタイ、スカーフ姿のスタッフが出迎える



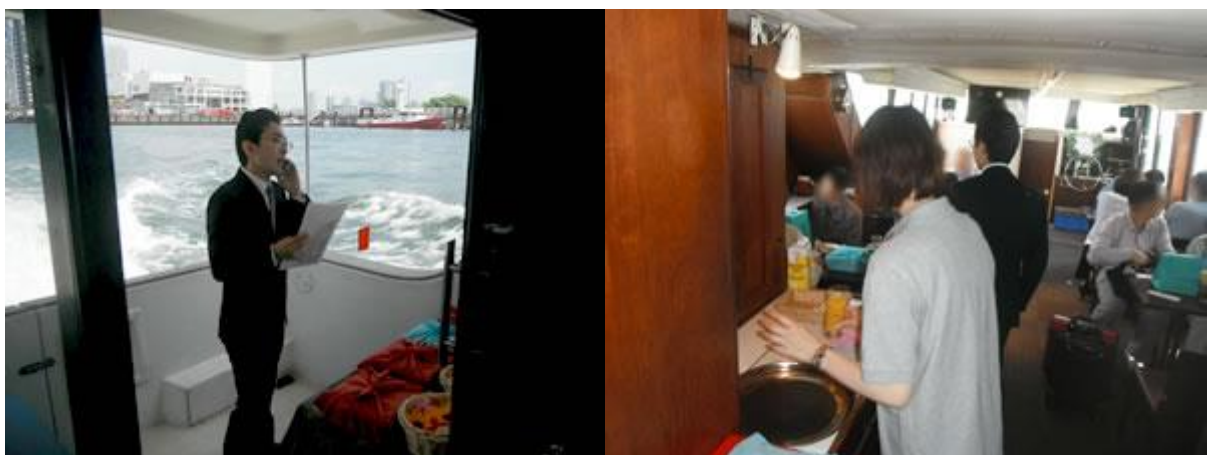
「お足もとにご注意ください。」「お荷物をお持ちします。」まるで飛行機の搭乗口でキャビンアテンダントに声をかけられているようです。朝潮小型船乗場にやってきたご遺族を船内に誘導する姿はとても自然で、いつも同じ対応をしていることが分かります。スタッフは全部で5名。自社船を操船する村田船長もご遺族をもてなすスタッフの一人です。船長含め男性スタッフはネクタイ姿、女性スタッフ（村田社長）は首にスカーフを巻いています。ブルーを使ったオリジナルデザインで爽やかな印象があります。スタッフのうち2名がバックヤードを担当。大切な裏方担当です。

船長が散骨ポイントの波や風の様子、到着予定時刻を説明



全員が揃った段階でまず船長が挨拶をします。乗船の御礼から始まり、散骨ポイントの緯度・経度、出港から帰港までの波や風の様子、散骨ポイント到着から帰港予定時刻について、ていねいに説明しています。また飛行機と比べてしまうのですが、機長挨拶のアナウンスを聞いている感覚です。その後村田社長から船内の説明、航行時の注意点などの説明がありました。いよいよ出発です。船は徐々にスピードを上げていきますが、船が大きいからでしょうか。大きな揺れを感じません。乗船場所の「朝潮小型船乗場」は晴海運河内にある棧橋で、波もなく穏やかな場所にあります。銀座からタクシーで10分、都営大江戸線「勝どき」駅からは徒歩5分の好立地です。また散骨ポイントの羽田空港沖も滑走路が波を止めてくれるので比較的揺れの少ない状態で散骨をおこなうことができるようです。

ご遺族への連絡と、船内の行き届いたプロのサービス



出発後、後方デッキで待機していた私の目に飛び込んできたのは、各スタッフが無駄なく各自の役割をおこなう姿です。まず男性スタッフが代行委託散骨をおこなうご遺族に無事出発したことを連

絡します。その間バックヤードの男女スタッフがドリンクサービスの準備を行ないます。ブルーオーシャンセレモニーのドリンクサービスは数種類のソフトドリンクが選べて、おかわりも自由です。アルコールも別途有料で提供しています。ブルーオーシャンセレモニーを運営する株式会社ハウスポートクラブは、パーティークルーズなど飲食を提供するクルージングをおこなっていて、そこでの接客ノウハウが行き届いたサービスにつながっているのだと感じました。また、このようにグラスでドリンクを提供するスタイルは私にとっては初めてで、ほとんどの散骨会社がペットボトルで飲物を提供しています。キッチン付きの自社船を持つメリットを感じます。

航行中もご遺族とのコミュニケーションを欠かさない

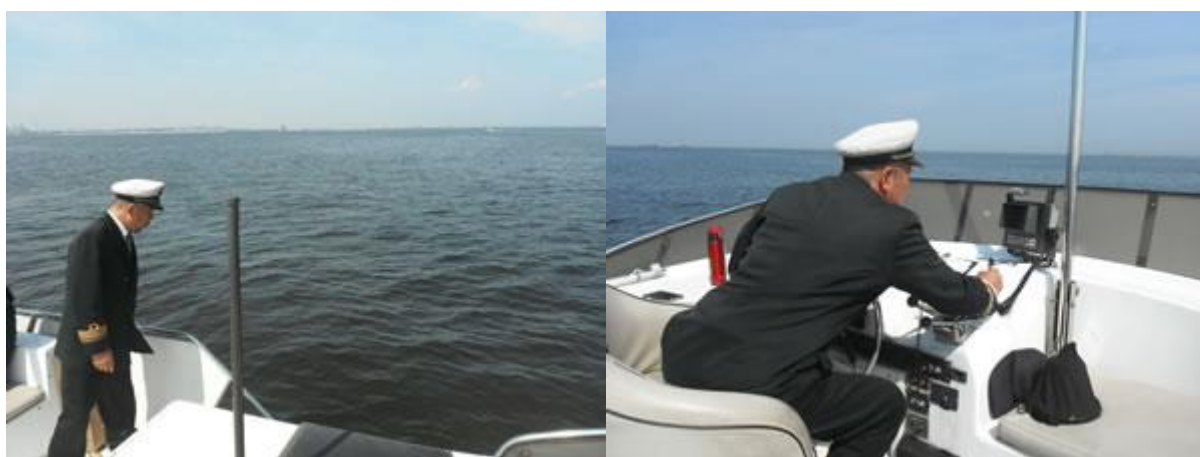


「〇〇様が上(スカイデッキ)に移動されたので見に行ってください。」とスタッフに指示を出す村田社長。船室内では男性スタッフがテーブルのご遺族と会話を欠かしません。といっても無理にコミュニケーションをとるのではなく、ご遺族の様子を見て必要な時に声をかけています。ご遺族全員に目配りを欠かさないスタッフの体制に感心しました。また今回の合同散骨、代行散骨は、この男性スタッフが遺骨の引取りなどですべてのご遺族と事前に会って話をしているので自然に会話ができます。基本にご遺族が乗船されるときにスタッフ全員と初対面にならぬよう、受付から散骨終了まで1担当制を取っているブルーオーシャンセレモニーの心遣いは素晴らしいと思いました。

散骨ポイントは1組ずつ測位する



船が散骨ポイントに到着しました。静かな場所です。東京湾での散骨は数回取材をさせていただいていますが、場所によってその表情はさまざまです。岸も大型船の姿もかなり遠く、海を見渡すことができます。後方デッキで1組ずつ散骨、献花、献酒を行ない、終了したご遺族を2階のスカイデッキに誘導します。スカイデッキでは村田船長が散骨の様子を注意深く見守っています。1組ごとに散骨がおこなわれたのを確認すると急いで緯度・経度を確認してメモを取っていきます。初めて見る光景です。「船が止まっても風や波で微妙に緯度・経度が変わるので1組ごと測位している。」と話す村田船長。ご遺族には伝わりにくいであろう細やかな仕事を当たり前のようにおこなう船長の姿に意識の高さを感じます。スカイデッキでは、散骨を終えたご遺族が清々しい表情で青い空と海を見つめています。



スカイデッキで黙祷、十点鐘、そして代行委託散骨実施



船のエンジンが止まり、静寂が訪れます。スカイデッキでは黙祷とともに10回号鐘を鳴らす「十点鐘」がおこなわれます。どこまでも響く鐘の音が印象的です。その頃、後方デッキでは村田社長とスタッフ2名が代行委託散骨をおこないます。風呂敷をほどいて木箱を開けて写真撮影、散骨の様子もたくさんの写真を撮影します。決して端折ることなく、いねいに1柱ずつ3名で行なう代行委託散骨は、きっと乗船できなかったご遺族にも「お願いして良かった。」と思われることでしょう。



「イメージ通りの散骨でした。」



十点鐘が終了すると、船はゆっくりと動き出し、散骨ポイントを旋回します。船は旋回して汽笛を鳴らします。この最後の汽笛は何度聞いても薄れることなく心に響きます。その後船はお台場、晴海を經由して朝潮小型船乗場に帰港します。同じルートでは帰らずに、東京湾内をクルージングすることで、散骨を終えた遺族に故人を想う時を提供します。羽田空港に着陸する飛行機を真下から見るスポットで写真撮影をしたり、カモメがいる季節は餌やりをおこなったりするそうです。

今回も1組のご遺族にお話しを伺うことができました。亡くなられたお母様の散骨にご主人と乗船したSさん（女性）に、いくつかインタビューをさせていただきました。

散骨・海洋葬を選ばれた理由をお聞かせください。

「病床で母が海への散骨を強く希望していました。お墓に来てもらうよりも、海に遊びに来る感覚で会いに来て欲しいというのが母の願いでした。」

複数ある業者の中からブルーオーシャンセレモニーを選ばれた理由についてお聞かせください。

「インターネットで調べて比較した際に、一番感じの良いホームページだったのがブルーオーシャンセレモニーでした。実際今日イメージ通りの散骨をしていただき、とても良かったと思います。はじめは全骨散骨に迷いがあり、手元供養も考えましたが、結局全骨散骨を選びました。メモリアルクルーズにもぜひ参加したいです。」と今日の散骨について振り返っていました。

最後に散骨を検討されている方へのアドバイスをお願いします。

「周りに一人でも散骨に反対する人がいるのであれば、取り返しのつかない散骨を選ぶべきではない。そのかわり全員が納得して行うのであれば、散骨はひとつの供養の方法と考えてよいと思います。」

Sさんご自身は、散骨は選ばずにお墓に入ることをおっしゃっていました。私はこうやって本人の意志で供養の方法について選べるのが最も大切であり、Sさんのようにご自身の考えをしっかりと持っていらっしゃる方は素晴らしいと思いました。

最後までご遺族を見送る



すべての予定が終了して船は朝潮小型船乗場にゆっくりと戻ってきました。船室内で村田社長から最後の挨拶があり、ご遺族が下船して栈橋をあとにします。栈橋でご遺族の姿をずっと見送る2名のスタッフと船長の姿。船会社の船をチャーターする場合は、時間で料金が決まっているため、時間に余裕がない時はどうしても慌ただしくなりがちです。チャーター船の船長がご遺族を最後まで見送ることもありません。自社船を所有するということは当然費用面での負担も大きいと思いますが、それに代えがたいメリットも多くあることを今回学ばせていただきました。

今回、一般社団法人日本海洋散骨協会への加盟会社でもあるブルーオーシャンセレモニーの散骨を初めて見せていただきました。驚いたこと、感心したことや勉強になったことがたくさんあったので、今回のレポートはだいぶ長くなってしまいました。まるで飛行機やホテルの接客を見ているようだった今回の合同散骨と代行委託散骨。飲食を提供するパーティークルーズの接客ノウハウが活かされた独自のサービスがブルーオーシャンセレモニーの魅力であり、スタッフ全員が同じ方向でさらに高い質を求める姿が、多くのご遺族に支持される理由なのだと実感しました。

ご協力いただいた散骨施行業者

ブルーオーシャンセレモニー



経験豊富な船長とスタッフが24名まで乗船できる自社クルーザーで散骨をおこないます。故人を想う気持ちを大切に、ご遺族のさまざまなご要望にもお応えしています。

→[ブルーオーシャンセレモニー 詳細ページへ](#)

「散骨・海洋葬ネット」 <http://www.kaiyoso.com/>

散骨・海洋葬の情報を提供するポータルサイト。

全国の散骨施行会社・散骨業者を紹介しています。合同散骨の日程表も公開。



散骨施行会社インタビュー vol.11 ブルーオーシャンセレモニー



2015年2月に都内初の終活コミュニティーカフェ「BLUE OCEAN CAFE」（ブルーオーシャンカフェ）をオープンしたブルーオーシャンセレモニーに訪問しました。事務所はカフェの奥になります。当日は午前中に合同、代行委託散骨の取材もさせていただき（取材の様子はこちら「[クローズアップ vol.18 散骨・海洋葬同乗体験レポートⅦ](#)」）1日密着取材になってしまいましたが、村田ますみ社長にいろいろとお話を伺うことができました。

Q：散骨・海洋葬を始めたきっかけは？



亡くなった母の散骨体験と、村田船長との出会いです。母は生前「お墓に入りたくない、沖縄の海に散骨してほしい。」と私に話していました。私は母の想いを叶えるために当時は現在のようにあまり知られていなかった海洋散骨について、インターネットの情報を頼りに自分で業者を探してやっと実現することができました。その後、当時別の船会社で海洋散骨部門を担当していた村田船長に出会い、自分たちで船を購入して海洋散骨事業を始めることを決めました。

Q：散骨で心がけていることは？



受付から遺骨の引取り、乗船、散骨証明書類発行までの一連の業務を、できる限り一人の担当がひとつひとつの対応に心を込めておこなえるよう「一担当制」を心がけています。担当者がどうしても対応できない場合は、事前にスタッフ全員でご遺族の情報を共有して担当者と同じ対応ができるように注意しています。そして乗船されたご遺族に「自分の手で故人を見送った」という実感を持ってもらえるような対応を心がけています。またホテルのようなサービスと飛行機のような安全管理を心がけています。ご遺族と接するスタッフはスーツを着用し、出発前は船長から航路及び風、波の状況、到着時間の説明をおこない、私からは船内の説明等をおこなっています。

Q：今まで実施した散骨のなかで印象に残っていることは？



メモリアルクルーズやブルーオーシャンカフェのセミナーなどにも参加いただいて、今でも深いお付き合いをさせていただいている方の息子さんの散骨が印象に残っています。詳しくお話しすると故人様、ご遺族のプライベートに関することになるのでお話しできませんが、私たちにとって大切なものとゆかりのあるエピソードがあった故人の散骨で、単なる偶然とは思えない運命的な出会いでした。

Q：ブルーオーシャンセレモニーの散骨・海洋葬の特長を教えてください。



大きな特長としては「合同メモリアルクルーズ」があります。散骨をされた方には散骨証明書類と一緒に合同メモリアルクルーズの招待券を担当スタッフ直筆のお手紙を添えてお送りしています。おかげさまで毎年乗船される方もいるほど人気があり、実施回数を増やすことも検討しています。またパーティークルーズ事業もおこなっている当社にとって、船内での会食付散骨プランも大きな特長です。パーティークルーズでの接客、サービスのノウハウがご遺族に対する接客に活かされて

います。その他の特長としては下記の内容があります。

ご遺骨の引取り訪問と手元供養品のご案内

ご希望があれば遠方であってもお伺いします。（別途交通費等実費をお申し受けます。）ご遺族からは「できれば引取りに来て欲しい」という要望が多いので、よろこんでいただいています。また実物をご覧いただく機会がない手元供養品を自作のケースに入れて訪問時にご案内しています。こちらでも手元供養をご検討いただいている方に大変好評です。

ブルーオーシャン倶楽部

海洋散骨の生前予約会員としてスタートしましたが、現在はイベントやセミナーの告知、会報誌の発行、ブルーオーシャンカフェでのカフェメニュー50円引きなどの特典がある終活サポートサービスになっています。

制服の着用

ご遺族には周囲の環境を配慮して喪服、礼服の着用はご遠慮いただいておりますが、「平服」といってもラフな服装で来られる方は少ないので、乗船するスタッフもスーツを着用して接客をおこなっています。近日オリジナルデザインの制服を着用開始する予定なので、ご期待ください。

Q：最後に散骨を検討されている方へメッセージをお願いします。



まずはご遺族全員が納得できるまで時間をかけてじっくりとご相談ください。長期間にわたるご相談でも無料で受け付けています。実際に2年以上ご検討いただいたお客様もいらっしゃいますので、安心してお声がけください。またどのようなことでも構いません、私たちに沢山のリクエストをください。これまでも私たちが気付かなかったことをお客様から教わって、当社のサービスに取り入れてきました。とにかく初めてお会いするご遺族からいろいろなお話を伺って、未永くお付き合いをしていきたいと願っておりますので、ぜひ一度ご連絡ください。お近くの方はBLUE OCEAN CAFEでもお待ちしております。

インタビュー後記

今回はBLUE OCEAN CAFEで昼食をとりながらのインタビューでしたが、店頭セミナー告知のチラシを持ち帰る方も多く、地域のみなさんの興味の高さがうかがえます。とにかく精力的に動き続けている村田社長。インタビュー中に「私たちは事業を続けなければならない社会的責任がある。」と、人の供養に携わる責任の重さを話す姿がご自身の決意にも見え、遺族との信頼関係を築く礎になっているのだと感じました。

プロフィール



ブルーオーシャンセレモニー

〒135-0002

東京都江東区住吉 2-2-4

TEL : 03-6659-9802

FAX : 03-6659-9803

HP : www.352.co.jp

村田 ますみ (むらた ますみ)

1973年東京生まれ

同志社大学卒業後、IT業界、生花流通業を経て2007年に株式会社ハウススポーツクラブを設立。東京湾を中心にパーティークルーズと海洋散骨事業を展開。2014年、全国の散骨業者で組織する一般社団法人日本海洋散骨協会代表理事に就任、2015年には都内初の終活コミュニティーカフェ「BLUE OCEAN CAFE」をオープンし、終活のトータルサポートを本格的に開始した。

趣味はダイビング、読書。